

図書館だより 1月号



あけまして
おめでとうございます!!
今年も図書室を
よろしくお願いいたします

図書委員のおすすめ (2-4)



2020年、新しい年が始まりました！去年はどんな本を読みましたか？今年は、どんな本を読みたいですか？

去年とまったく違う本を読んでもいいのではないのでしょうか？図書室にも様々なジャンルの本が置いてあるので、是非足を運んでみてください！

昼休み、放課後と、図書室は、静かで集中することのできる空間になっています！

『オリент急行の殺人』 アガサ・クリスティー
真冬の欧米を走る豪華列車オリент急行。コンパートメントは満室、国籍も身分も様々な乗客が乗り込んでいた。大雪で列車が止まった翌朝、無残な刺死体が発見される。偶然乗り合わせた名探偵ポアロが調査に乗り出すが、すべての乗客には完璧なアリバイが…

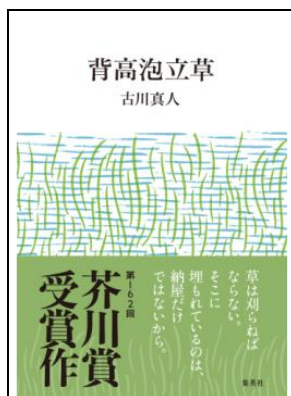
ミステリの魅力が詰まった一冊になっています。ぜひ読んでみてください。



『深夜廻』 黒史郎
ある夏の終わりのこと。2人の少女ユイとハルと一緒に花火を見ることになった。花火が終わり、暗い山道を2人で手を繋ぎながら下って行く。

しかし、少しのあいだ手を離れた隙に、2人ははぐれてしまった。ユイはハルを、ハルはユイを探す決意をし、夜の街へ、2人はお互いを探しに出る。

*2019下半年 芥川賞・直木賞 決定



購入予定です。乞う、ご期待！

*図書委員おすすめ♡シネマ

物語の舞台は、第二次世界大戦下のドイツ。10歳の少年ジョジョは、空想上の友達であるアドルフ・ヒトラーの助けを借りて、青少年集団ヒトラーユーゲントの立派な兵士になろうと奮闘していた。しかし、心優しいジョジョは、訓練でウサギを殺すことができず、教官から〈ジョジョ・ラビット〉という不名誉なあだ名をつけられる。そんな中、ジョジョは母親と二人で暮らす家の隠し部屋に、ユダヤ人少女エルサが匿われていることに気づく。やがてジョジョは皮肉屋のアドルフの目を気にしながらも、強く勇敢なエルサに惹かれていく――。

ドイツの戦争の狂気と事実を新しい手法、ユーモアでとらえていきます。子供に手投げ弾の投げ方を教え、ユダヤ人絶滅を信じ込ませます。広場の絞首台に反逆者の遺体が下がっている恐ろしさ。権力にあらがう母の勇気に元気づけられるジョジョ。

「すべてを経験せよ。美も恐怖も生き続けよ。

絶望が最後ではない」(R・W・リルケ)



担当以外の図書委員から♡

『いもうと』 赤川 次郎

累計160万部を超える大ヒット作『ふたり』の続編です。

『ふたり』は、17歳で事故死した姉の声が、ある日突然、頭の中で聞こえるようになった少女・実加の物語です。

この作品は、それから11年後、27歳になった実加は母も亡くし、父も絶縁状態になります。仕事に恋に多忙な中、父がよその女性との間にもうけた娘、実加にとっての新しい妹が現れて…。

前作とぴったりとつながり、思いがけない展開が待ち受ける感動作となっています。

ちなみに『ふたり』は大林宣彦監督が映画化しました。先生方には懐かしい作品ではないでしょうか。

